全中道研会報

令和８年７月30日　第１号
全日本中学校道徳教育研究会
https://www15.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350010

会長挨拶

道徳教育の将来を考え、実践する持続可能な組織の発展を目指して～全国大会「東京大会」の成功を祈念して～



令和８年度 全日本中学校道徳教育研究会
会長　加藤　敏久
（世田谷区立北沢学園中学校　校長）

令和７年度に引き続き、８年度も全日本中学校道徳教育研究会の会長を務めることになりました東京都世田谷区立北沢学園中学校長の加藤敏久です。全中道研顧問や参与の諸先輩方による輝かしい業績や会の運営について大切にしてこられた事柄を引き継ぎ、副会長、理事、そして事務局の皆様のご協力、ご支援をいただきながら努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

皆様ご承知のことと思いますが、本研究会顧問で第２１代会長の冨山謙一先生が、令和８年春の褒章で瑞宝双光章を受章されました。本会を代表して心よりお祝いを申し上げます。冨山先生は、私が駆け出しの教員の頃、東京都教育委員会で指導主事を務めていらっしゃいました。私の勤務校が道徳教育の研究指定を受けたことから、大変丁寧にご指導いただいたことを思い出します。多くの皆様も冨山先生にご教示いただいたことがおありではないでしょうか。あらためまして、ご受章おめでとうございます。機会がございましたら、ぜひ本研究会へもお越しいただければ幸いに思います。

さて、道徳教育に関するワーキンググループにおいて、これからの道徳教育の在り方について議論が進められ、取りまとめ（案）が公開されています。そこでは、予測困難な時代を生きる子供たちに必要な資質・能力の育成や、ウェルビーイングの実現、多様性の尊重、探究的な学びとの関連、さらにはデジタル社会における倫理観や情報モラルの育成などが重要な視点として取り上げられています。

また、道徳科については、「考え議論する道徳」の実装のフェーズへの移行が求められています。現行の学習指導要領「考え議論する道徳」の骨格は維持するとの考え方に立ち、道徳教育及び道徳科の目標については、現行の記載を維持する方向性が示されました。そして、これまでの成果を踏まえながら、改訂の基本的な考え方として「深さ志向」「多様性志向」、各教科等との「連携志向」に整理されました。多面的・多角的で多様な考えに触れ、自分事として深く考える学習を土台に、「深める教材」の充実、問題解決的な学習における「自己内葛藤」「価値の対立」と複数時間の関係、各教科、総合、特別活動との連携など、学校全体で取り組む道徳教育との一体的な推進などの重要性が述べられています。「民主的で持続可能な社会の創り手」の育成との関係もたいへん興味深く思います。

私たち道徳教育に携わる者には、こうした国の動向やAI時代の到来を踏まえながら、実践と研究を積み重ね、不易の部分である子供たちの内面的資質としての道徳性や「人間」としてよりよく生きる力を育む教育の一層の充実を図ってまいりたいと考えます。１１月の全国・関ブロ大会東京大会に大いに期待しております。多くの方々に東京大会へご参加

いただき、その最新の学びを各ブロックに持ち帰って広めていただきたいと思います。

話は変わりますが、７年度の会報第４号におきまして、本会顧問で第２６代会長の永林基伸先生に寄稿いただきました。誠にありがとうございました。その後、先生の思いを込められたお話しを伺う機会がありましたので、要約を掲載いたします。

〇道徳科の授業では、教師が教材と真摯に向き合い、道徳的価値の本質を深く理解することが何より重要である。

〇次期学習指導要領で体験活動や総合的な学習との連携が重視されている。本質的な改善のためには、価値の内容を十分に捉えた授業に期待している。学習指導案の例や実践例をそのまま鵜呑みにするのではなく、教師自身が教材研究を行い、自ら価値を見極める姿勢が求められる。

〇チームで行う道徳授業は、教師の負担軽減だけでなく、生徒が自由に考えを表現し、教師同士が授業力を高め合うことを目的とすべきである。

〇一朝一夕にはできないことも多く、がんばっている先生方もたくさんおられることは承知している。これからの道徳教育には、授業のかたちだけでなく、これまでの道徳教育の理念と特質を継承し、世界の安定や平和に寄与できる人格の育成を目指すことを願う。

永林先生の道徳教育への熱い思いを感じるとともに、「考え、議論する道徳」の実装のフェーズに移行していく今こそ、大切なことを伝えてくださっていると私は思います。あらためまして、本年度も役員・理事の皆様、顧問・参与の方々、そしていつも本会を支えてくださっている事務局の先生方、どうぞよろしくお願いいたします。

結びに、上廣倫理財団、石橋財団の皆様のご支援に心から感謝申し上げるとともに、今後のご支援も引き続きお願い申し上げます。

第１回　役員・理事会　報告

令和８年７月４日（土）午後２時 45 分より、全中道研役員・理事会（第１回）を上廣倫理財団ＵＦホール会場にてオンラインを活用したハイブリッド型で実施しました。

全中道研　加藤会長からは「学習指導要領改訂を見据えた道徳科の授業研究について」の挨拶に続き、全中道顧問の皆様からご挨拶をいただいきました。さらに、会場およびオンラインにてご参加いただいた理事の皆様から自己紹介とともに各地区の活動状況について報告していただきました。

主な議事・報告については、事前に配付した資料をもとに承認をいただきました。

１　令和７年度事業概要報告
２　令和７年度決算報告
３　令和８年度事業計画案
４　令和８年度予算案
５　令和８年度役員組織



次に、事前に配付した資料をもとに、今年度の全国大会である「東京大会」について、木村理事より説明をいただきました。

６－①　全国大会について

【令和８年度　東京大会】

大会主題を「人間としての生き方についての考えを深める道徳科の指導の工夫　－補い、深め、発展させることを留意した取組の充実

ー」として、令和８年１１月５日（木）から６日（金）の二日間で大会を開催します。大会一日目は、板橋区立赤塚第二中学校を会場に、授業公開及び授業協議会、課題別分科会を行います。また同会場にて全中道研第一回役員・理事会を予定しています。二日目は、板橋区立文化会館大ホールを会場に、指導講話、記念講演等を行います。

◇課題別分科会

第１分科会（栃木県、徳島県）

「道徳科の指導と評価の一体化」

第２分科会Ａ（広島県、東京都）

「道徳科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

第２分科会Ｂ（北海道、茨城県）

「道徳科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

第３分科会（山形県、東京都）

「道徳科における補助教材(副教材)の効果的な活用」

第４分科会（鹿児島県、東京都）

「今日的な課題や地域特性を生かした道徳科の推進」

第５分科会（愛知県、大阪府）

「道徳教育推進教師を中心とした道徳科の展開」

東京大会の大会申込みにつきましては、全中道研のホームページに掲載されていますので、ご確認ください。

https://amarys-jtb.jp/moraleducation/

【申込期間】令和８年７月６日（月）～
令和８年９月３０日（水）



【その他】

今後の全国大会は、令和９年度 奈良大会、令和１０年度 愛媛大会、令和１１年度 島根大会、令和１２年度 長崎大会、令和１３年 岩手大会の予定です。全中道研の事務局では、今後も各地区と連携して全国大会の実施について計画的に進めてまいります。

６－②　ブロック大会について

（１）北海道ブロック

第６１回北海道道徳教育研究大会釧路大会

令和８年１０月９日（金）

釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞」

「自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考え続ける児童生徒の育成　～教材・他者・自分自身との響き合いを通して～」

（２）東北ブロック（青森県）

第２３回東北地区中学校道徳教育研究大会青森大会

第１６回青森県中学校教育研究大会東青大会

令和８年１１月１３日（金）

青森市立東中学校

「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳教育　－ともによりよく生きることを目指して－」

（３）関東甲信越ブロック（東京都）

第５５回関東甲信越中学校道徳教育研究大会、第５６回東京都中学校道徳教育研究大会

令和８年１１月５日(木)から１１月６日(金)

板橋区立赤塚第二中学校

板橋区立文化会館大ホール

「人間としての生き方についての考えを深める道徳科の指導の工夫　－補い、深め、発展させることを留意した取組の充実－」

（４）東京ブロック（東京都）

※（３）と同様

（５）近畿ブロック（京都府）
第３２回近畿中学校道徳教育研究大会京都大会、
第２２回京都府中学校道徳教育研究発表会
令和８年１１月２０日（金）
南丹市立園部中学校、南丹市立八木中学校
南丹市立殿田中学校、
京都府立園部高等学校附属中学校
南丹市園部文化会館「アスエルそのべ」
「主体的に考えを深める道徳科の創造～共に考え、共に語り合う授業を目指して～」
（６）四国ブロック（香川県）
第３０回四国小･中学校道徳教育研究大会(香川大会)
令和８年１１月１３日（金）
高松市立牟礼中学校
「豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育－自己を見つめ、互いに高め合う授業の工夫－」



７　その他

（１）功労者表彰推薦については、締め切りを延期しまいた。全中道研に貢献した会員について、記念品を贈ります。
【締め切り：令和８年８月６日（木)】
（２）都道府県研究大会・研究指定校等の報告については、締め切りを延期しまいた。都道府県研究大会等で希望される地区には祝電を送付させていただきます。
【締め切り：令和８年８月６日（木)】
（３）各地区大会
ア　第２２回大阪府中学校道徳教育研究会中河内大会
令和８年１０月２８日（水）
東大阪市立長栄中学校
「主体的・対話的で深い学びのある『考え、議論する道徳』の実現のために」～他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を高める～
イ　第２９回愛教研小・中学校道徳教育研究大会
令和８年８月５日（水）
松前総合文化センター
「よりよく生きるための基盤となる道徳性が育つ道徳教育の研究－学びがいのある道徳科の授業を要として－」

８　次回役員・理事会の確認

第２回：令和８年１１月５日（木）
・ハイブリッド開催
第３回：令和９年２月２７日（土）
・ハイブリッド開催
上廣倫理財団ＵＦホール

９　講演

「道徳教育の更なる改善･充実を目指して」

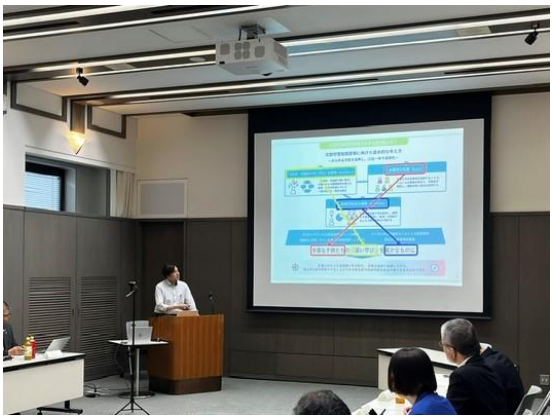
国立教育政策研究所教育課程調査官（併任）
文部科学省初等中等教育局教科調査官
大平　剛生　先生

文部科学省より大平調査官をお招きし「道徳教育の改善・充実を目指して」と題して、ご講演をいただきました。大平調査官からは、道徳教育及び道徳科の学習指導要領改訂に向けたワーキンググループにおける審議状況の報告や道徳教育の要としての道徳科等について、ご講義いただきました。冒頭には、改訂における現状と課題や学びの在り方などが議論されていることなど、審議の概要について説明がありました。ご講演で使われている資料については、文部科学省ウェブサイト内の教育課程部会　道徳ワーキンググループにて公開されています。

道徳教育及び道徳科の目標については、現行の記載を維持することとしてはどうか、学年別の目標についても引き続き維持することとしてはどうか、などが議論されているとのことでした。また、「見方・考え方」については、他教科等と異なり、道徳科では目標とは別に示さないこととしてはどうか、「高次の資質・能力」についても、目標とは別に定めないこととしてはどうか、という議論がなされているとのことでした。さらに道徳科の授業においては、複数内容項目を取り扱う指導や複数時間での指導などの審議内容について、具体例を交えながらご紹介いただきました。

参考として指導方法については「道徳教育アーカイブ」のホームページに、具体的な実践事例が公開されており、授業動画とインタビューが分けて紹介されているので是非参考にしてほしい旨の話がありました。

大平調査官のご講演内容については、後日、全中道研ホームページでもご紹介させていただきます。資料の詳細は、全中道研ホームページをご覧ください。



１０　事務局長の紹介



令和８年度、全国の皆様と連携し、全日本中学校道徳教育研究会の充実･発展に努めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

新宿区立落合第二中学校　校長　大川直樹
住所　〒161-0031 東京都新宿区西落合 1-6-5
電話　（03）3565-0702
naoki.okawa@city.shinjuku.lg.jp（学校勤務先）

